

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(教育委員会)

事業	11	事業名	しずおか型部活動推進事業費
----	----	-----	---------------

1 基本情報

実施日／班名	9月7日 第1班	時間	14:30~15:37
担当課名	スポーツ振興課	事業費	38,400 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	14
			一定の効果がある	18
			あまり効果がない	2

3 県民評価者の意見(レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見)

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> 効果の出現を測るアウトカム指標を設定すべき (例：派遣先の部員の増加、成績の向上)。 担当の部活動にコーチが必要ない方が43%、部活動へのさらなる外部指導者の導入を必要としない方が61.6%というアンケート結果から、この事業は本当に必要なのでしょうか。
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> 生きがいや潤いをもたらす文化・スポーツの振興に関する調査における外部指導者の増員要否について、「中学校で必要としない」が2/3近くを占めるが、これは、中学校派遣が大学生ボランティアであることが原因ではないのか。中学校にもエキスパートを派遣することが必要ではないか。 年間52時間では、休日の長時間の指導は無理ではないのですか。 派遣人数が少なすぎる。どの種目に重点を置くのか。指導者の育成に向けて、インターネット等で一斉に指導を受けることのできる環境づくりにも力を入れてみては。 県民は、学校がエキスパート、ボランティアの方々を必要としていることを知らない方が多いのではないのでしょうか。大変良い事業だと思いますが、エキスパートの方々が足りないのであれば、もっと大がかりに募集をかけたければ良いのではないのですか。 専門的指導力を持った教員不足への対応、また教員の日常雑多な業務の遂行を考えたとき、この事業の一層の拡充を求める。問題は学校、生徒のニーズと外部指導者のマッチングをとるためコーディネーターを設置し、それを人材派遣会社においてデータベースを作るとしているが、この人材派遣会社をどう選定し、指導しているか。

事業内容

- ・現状は、学校側の要望を受けて人選・採用しているようですが、学校間の差があまり出ないようなバックアップをお願いしたい。学校によっては、エキスパート等の情報が少ない学校もあると思いますので、そのへんも考慮して対応願いたい。
- ・人材派遣企業にコーディネーターを配置するより、学校（先生）のネットワークを利用し、直接、必要な民間クラブチームと提携した方が、よりの確に、無駄な費用を使わず人材を確保できるのではないかと。
- ・校長先生が希望を出してくれないと派遣されないというのはいかがか。
- ・外部指導者の十分な審査が必要です。問題の発見につながるよう期待します。
- ・しずおか型活動推進の成果は、どうフォローしているのか。具体的な成果を公表してはいかがか。
- ・文化の匠については、大学進学（芸術）を含めた、芸術者の育成を具体的な目的にしては。
- ・学校の特色づくりに結び付けてはどうか。外部指導者を重点的に派遣しては。
- ・昨今、スポーツ科学の常識が覆ることが多くなっている。ストレッチの効果やシューズの選び方、走り方など、私はスポーツエキスパートが本当にエキスパートだと思っていたが、退職者がやるということで、そのあたりが非常に心配である。研修等があるようだが、本当にその程度で大丈夫なのか。退職者をエキスパートとは言い難い。本事業には期待しているし、もっとブラッシュアップしてほしい。
- ・スポーツエキスパート、ボランティアの方々の研修について、もっときめ細やかにして、研修もしっかりしていただいて、その方々の権限をもと与えると良い。
- ・スポーツのエキスパートだけではなくて、（スポーツに関してだけではなく）スポーツ後のマッサージの方、文化部のほうでも書道、華道、茶道を指導できる地域の方々にお手伝いしていただいたらどうでしょうか。
- ・OB、OGが指導に来る体制の強化ではいけないのでしょうか。
- ・学校の枠を越えての指導も考えたらいかがか。50年前には、吹奏楽であったが、指導者の息子さんに来ていただいた（部活はまねることから始める）。
- ・静岡型の特徴がよく分からない。教師の負担が軽くなるならいいが、もしかしてこのようなことが静岡県の教師のモラル低下につながっているのではあるまいか。
- ・謝礼などの単価は一律でなく、立場に応じて（たとえば、現職と退職者を分けるなど）設定してはどうか。特に大学生等にはアルバイトがわりにもなり、自らも学ぶ機会となると思うので考慮してほしい。
- ・指導を受けた生徒さんなどはどのように感じているのかも取り上げてほしい。
- ・学校の部活動の顧問になる先生の負担が大きすぎる。土日の出勤や放課後の指導は時間外手当がつかず、一律月500円とも聞いているのでそうした部活動の指導、顧問のあり方から見直した方がよい。先生たちが納得、健全な業務のあたり方ができていない状況では、生徒たちへのよりよい指導に悪い影響が出てしまう。
- ・県教委として、戦略性を持った派遣をした方がいいのではないかと（期間、地域性、強化面）
- ・顧問の先生がマイクロバスを自ら運転するというのは安全面でいかがか。
- ・中学校・高校の先生は、土日も練習試合があつたりして、本当に大変そう。ぜひ外部指導者や大学生のボランティアの力を借りたい。ただ、顧問とコーチの言うことが全く違うという話も時々聞くので、外部指導者の権限をどこまでにするのか、また、双方の意思の風通しが必要。
- ・本事業の目的を進めることによって、より効果的な結果・成果が得られることを期待しています。ただし、結果を求めすぎのために、セクハラ、虐待などの負のリスクについても、当然ながら対応しておくべきである。
- ・担当の先生により、指導に差があるのは感じていましたが、外部コーチや大学生による支援はとても有効である。特に年の近い大学生からの指導は大学生にとってもいい経験になる。
- ・外部指導者の単独指導ができるようにして、顧問の負担軽減にもしっかりつながるようにすべきである。

事業内容

- ・部活動の顧問も行う教員の負担は多く、現場での人材不足を強く感じる。学校からの要望が多くあるため効果はある。教員の負担が今も大きいので、手当の面など教員の負担軽減を見直してほしい。
- ・子供は年の近い大人とより近くなれると聞いたことがあるので、大学生の導入は大学生にとっても、高校生にとっても良いことである。しかし、大学生向けの広報の仕方について、大学生は県のホームページ等を見ないので、大学側に投げるのがよい。
- ・討議を聞く限り、部活動における教諭たちのあり方も考えさせられるところがあった。ボランティアを含め、地域と一体となって取り組めるような施策を打ち出してほしい。現状の課題に対して、改善及び解決、すぐれた成果につながる指導の両方を同時に進めてもらえたら、“しずおか型”が際立つ。
- ・部活動「顧問」という形はとるが、「指導」は別の方が行うなど、学校教育と部活動は分けてもいいのではないか。
- ・成功して欲しいが、最近、スポーツ界の常識がめまぐるしく変わっている。こうした中で、年1回の研修で対応できるのか。また、派遣するのが1人で足りるのか。こうした点を解決できれば、いい事業になる。
- ・外部の人を招くことで生徒の意欲も高まり、安全面も向上する。外部指導者との相性が合わない生徒のケアが必要である。

(2)その他の意見

- ・より強い部活にするための希望と底上げの希望は、どちらが優先されるのか。
- ・その部活内容に関わったことのない先生が、顧問という立ち位置だけで生徒に向き合うのは大変である。その意味で専門的指導者は必要だが、一方で、近年指導者の資質も問題になっているとも聞きます。その指導者の資質に問題があった場合の責任はどこにあるのか。
- ・2,000万円の国委託の活動について説明がほしかった。これに対する今後の評価を期待する。
- ・コーディネーター等を配置している人材派遣会社への支払いの有無はどちらですか。
- ・先生は、できるだけ部活に携わらないほうがいい。
- ・学校の先生の負担を減らすためにも必要。特に「剣道」は専門知識がないと難しい。富士東高校の例で、昇段審査の合格者が載っていたが、審査合格するにも、知識がないと指導できないので必要。強くするために派遣するというより、専門知識のある人の派遣と、学校の先生の負担を減らすための派遣という点においては必要がある。
- ・保護者から見たら、部活を指導して下さっている方はみんな「先生」です。技術面だけの指導ではない、と言われましたが、学校生活の中で、教育の一環としてその子に適切な指導がきちんと行われているのかという評価はできているのでしょうか。
- ・スポーツ顧問と外部指導者の受入は、どの学校も考えていると思います。
- ・顧問の負担軽減のためには必要だと思うが、外部指導者の指導法、資質についてのチェックは誰がしているのか。
- ・勝負にこだわるあまり、スポーツを通しての人間性の指導がおろそかになっているのではないかと思う事例を見ます。試合で失敗した生徒を罵倒している指導者を見ます。また、スポーツにおいては、小中高生の成長期にあった時間数、練習方法等の細かい配慮のできる外部指導者であることを望みます。
- ・私立では、学校でコーチを入れたりしています。私立と公立では予算や給与体系が違うと思いますが、どのような差があるのでしょうか。
- ・経験の少ない先生が、自信はないのに指導している。先生も担当になったら、1年生と同じで一緒に勉強していったらいい。今後OB、OGの応援で強くなっていけるのでは。先生＝指導力ではないでしょうか。
- ・専門知識がない顧問のもとでは、せつかく部活の技術を上げ、頑張っって強くなりたい生徒たちにとっては満足のいかない3年間になるので必要な事業である。

- 日本の学校教育の中で、部活動の意義を考えると、よい充実が求められる。また、生徒たちに対する公平性を保つためにも、県の専門家派遣のサポートは必要である。
- 学校の先生の仕事の範囲が幅広いので、技術面向上等で外部指導者が得られるのなら、とても良いことである。私の高校時代の部活の顧問が、そのスポーツの経験がない転任してきた先生になった。そのときレギュラーだった子達からは不満が多く出て、部活をやめる、やめないの問題になったことがあった。当時この外部指導者の制度があったら、もっと違った部活動生活だった人もいたのではと考える。
- とても良いことである。専門家の指導を受けられることは貴重な経験だ。
- 指導中の怪我などに対する指導者の保証はどうか。
- 派遣や非常勤講師は、単純に言うとは縁故採用としか思えず、活動がいびつである。もちろん指導者がいないよりは、いる方が良く、それなりの効果はあると思う。コストは93千円/人・年、94千円/人・年なのでやればよい。しかしながら運動部顧問調査報告書Q2、Q3の調査回答で「何とか指導以上76%」「A+B=77%」と運動部顧問は回答している。現状を肯定すべきだが、教育の負荷大変の話は別。
- 24年度事業仕分けで「増額すべき・実施すべき」となった理由が理解できない。
- 部活動は本来、学校授業を充実させるためのものであって、部活度が学校の名前を広げるために利用されているのが現状である。あくまでも授業が中心で、部活動は授業が効率よくできるための補助手段である。
- 自己評価で派遣希望校が多いため配置校を増大した、活動指標でスポーツエキスパート75人とある。一方、運動部顧問調査報告書のQ4「部活動へさらに何人の外部指導者の導入が必要か」で必要人数が中・高合計で312人とある。今後どのように対処しようとしているか。
- 中高と運動部だったのでとても身近な事業でわかりやすかった。自分の経験に基づくものだと内容も分かりやすい。
- 中学・高校の部活動体験は、私自身の経験からも、人生において重要なものなので、より専門的な知識や経験を持つ者の指導体制を整えることはとても効果的である。
- 生徒にとって望ましい部活動を推進することが目的なら、外部指導者を派遣することは、大きな効果がある。
- 生徒にとっては部活動の顧問というのは、人格を形成していくうえで、とても大切な存在である。ただ、顧問となる先生方の多忙により、十分な指導の行き届いていない現状がある。また、知識のない指導者（顧問）にあたる生徒たちはとても不幸であり、生徒達のためにも必要な事業である。
- 地域の方々のボランティアによる無償の支援は、地域によってはあるが、必ずしもあるわけではないので、制度的に派遣の制度を作ることは大切である。
- 外部指導者による指導は、生徒たちの部活動に対する意欲も増大するし、安全面を考えても、指導力のない顧問の先生に任せるよりも安心である。
- その競技の経験がない顧問というのは、どこにでもあることで、教師の方々は大変な苦勞をしていると思うので、専任の指導がいるだけで大きく力になる。
- 施策についてではないですが、予算事業名の「しずおか型」の言葉の意味について、一度回答があったにも関わらず、同じことを何度も何度もしつこいと感じました。また、失礼ですがくだらない話で時間を取らずに、円滑に進めていただきたいです。